

情報等の交換に係る協力活動

○茨城県主催の緊急被ばく医療処置訓練見学会への参加

茨城県の「緊急被ばく医療関連情報連絡会」が平成29年度活動の一環として開催する緊急被ばく医療処置訓練見学会が以下のとおり開催されました。同連絡会からの協力要請を受け、協定加盟事業所へ参加者を募り、緊急被ばく医療処置訓練見学会に参加しました。

【開催日時】 平成29年11月30日（木） 13時30分～16時30分

【見学場所】 三菱原子燃料株式会社及び水戸赤十字病院

【参加者】 12事業所から40名

【訓練見学会概要】

緊急被ばく医療処置訓練は、緊急被ばく医療に関する契約書に基づき実施する訓練です。今回は、三菱原子燃料株式会社転換工場の転換加工室において、 UO_2F_2 溶液（以下「ウラン溶液」という。）を貯槽からサンプリングする際に、バルブ操作を誤り、ウラン溶液が飛散し、手から腕にかけて付着した。その際、負傷者は、ウラン溶液による化学火傷と汚染がある。との想定事象に基づき、①原子力事業所による応急処置、②消防機関による搬送、③医療機関による医療措置の訓練が実施されました。

見学会参加者は、三菱原子燃料株式会社の事務本館1階セミナー室で訓練の概要説明等を受けた後、同室内に仮設した模擬の作業現場での応急処置を見学しました。その後、ひたちなか・東海広域事務組合消防本部の救急隊員による負傷状況の確認、汚染防護養生された救急車での医療機関への搬送が行われ、搬送先の水戸赤十字病院に到着後、負傷状況の報告を行ったうえで負傷者を病院へ引き渡しました。見学会参加者は、汚染防護養生された医療処置室で汚染防護衣を着用した医療スタッフによる負傷者の除染及び医療処置などの訓練を見学しました。

その後、講評が行われ、三菱原子燃料株式会社及び水戸赤十字病院でのきびきびした対応、また水戸赤十字病院での負圧管理による汚染拡大防止が印象的であったとの感想が述べられ、予定どおりの時刻に終了しました。

三菱原子燃料株式会社



水戸赤十字病院



訓練の様子